

リスニングに関わるリソースの使用とリスニング能力との関係 —バンコクの日本語専攻の大学生の場合—

佐藤 純(タイ商工会議所大学)

1. はじめに

海外で日本語を教えていると、国内で教えている場合と違い学習者のリスニング能力がなかなか伸びないと感じることが多い。実際日本語能力試験の結果を見ると、1級から4級までの全ての級で聴解の点数の平均は、国内の学習者より低いものとなっている(表1)。特に1,2級においては、「文字・語彙」と「読解・文法」では、国内受験者より平均点が高いことがあるが、「聴解」の点数は全て国内受験者より低いものとなっている。ここから、海外においては「読み・書き」の能力より「聞く」能力の習得が難しいことがわかる。

このように、日本国内で学習する者に比べ海外で学習する者のリスニング能力が低い理由の一つとして、日本語の授業以外に日本語に触れる機会が少ないことがあげられるのではないか。トムソン(1997)や山口(2001)も特にリスニングに関わるものと言及はしていないが、海外においては日本国内よりもリソースが不足していることを指摘している。このようなことから、学習者のリスニング能力を上げるための1つの方策として、授業外にリソースを使うことが有効なのではないかということが考えられる。

タイのバンコクにおけるリソースの状況については、2001年に国立国語研究所(2003)によって調査が行われ、概要が報告されている。この調査により全体的な傾向を把握することができるようになったが、個別的具体的な把握にまでは至っていないため、リソースの使用がリスニング能力の向上に役立っているのかまでは解明されていない。

そこで、今回、学習者のリスニングテストの点数とリスニングに関係のあるリソースの使用状況との関係を調べることにより、授業以外にリスニング能力を伸ばすためにリソースを使うことは効果があるのか、また効果が認められた場合はどのようなリソースが特に効果があるのかということをも明らかにしたいと思う。そして、調査の結果をもとに今後のリソース調査の方向性についても述べてみたいと思う。

表1 日本語能力試験：国外平均と国内平均の差¹

		1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
1級	文字・語彙	3.4	0.6	1.1	1.1	-0.1	1	0.7	1.7	1.5	1.9	0.4
	聴解	-8.4	-9.9	-12	-13	-9.2	-8.5	-9.6	-11	-11	-6.8	-14
	読解・文法	10.7	3.1	3.9	-2.7	-3.3	-2.3	-1.6	0.9	1.9	8.6	-0.3
2級	文字・語彙	1.9	0.9	2.6	2.4	4.5	3.1	2	3.8	-0.3	3.2	2.7
	聴解	-15	-19	-21	-18	-22	-18	-15	-16	-17	-16	-22
	読解・文法	9.1	1.6	4.7	6.4	2.3	0.8	0.4	1.3	0.6	3.9	-1.4
3級	文字・語彙	-5.5	-3.8	-3	-1.8	-2.5	-1.5	-3.9	-4.3	-2.3	-2.9	0.3
	聴解	-25	-24	-26	-22	-28	-24	-19	-27	-23	-23	-22
	読解・文法	-13	-14	-11	-17	-13	-11	-9.9	-8.3	-15	-11	-9.8
4級	文字・語彙	-8	-9	-7.8	-5.9	-8.1	-6	-6.3	-8.7	-8.1	-7.4	-6.1
	聴解	-22	-20	-23	-25	-23	-24	-22	-20	-23	-24	-19
	読解・文法	-23	-23	-21	-17	-15	-16	-13	-16	-17	-18	-17

※上記の点数は(国外平均点-国内平均点)によって求めたものである。

2. 調査の目的と方法

2.1. 調査の目的

リスニングに関わるリソースの使用と、リスニング能力の高低との間に関係があるかということを明らかにするため、以下の3点について調査を行う。

- 1) 様々な種類のリソースを使う者は、リスニング能力が高いのか。
- 2) リスニング能力を高めるのに特に関係のあるリソースはあるか。
- 3) 学習者はリソースを使用して、リスニング能力が向上したと感じているか。

2.2. 調査の方法

リスニング能力の高低を測る基準としては、1993年の日本語能力試験2級の試験を用いた²。

リソースの使用状況とリソースを使用しての自己評価については、質問紙で回答してもらった。リソースの使用状況に関しては、それぞれのリソース使用の有無を聞き、リソースを使用しての自己評価に関しては、それぞれのリソースを使うことがリスニング能力の向上に役立っているかどうかについて、「リスニング能力は全然変わらない」から「とてもリスニング能力が良くなった」の5段階尺度で答えてもらった。

質問紙は、リスニングテストとの相関をみるため、記名式で回答してもらった。被験者は全てタイ語を母国語とする者なので、日本語で作成した質問紙をタイ語に翻訳し、それを質問紙として配布した。

リスニングに関わるリソースとして設定した項目は、以下の通りである。

- (1) 直接会って日本語で会話をする
- (2) チャット
- (3) ニヶ国語放送を用いなくても日本語を聞くことができるテレビ番組
- (4) ニヶ国語放送を用いて日本語を聞くテレビ番組

- (5) ラジオ
- (6) ビデオ
- (7) VCD
- (8) DVD
- (9) テープ
- (10) CD
- (11) インターネット

(1)と(2)の項目に関しては、話す相手として日本人教師、タイ人教師、大学の友達など下位項目を設定したため、全部で23項目となった³。

2.3. 調査の概要

リスニングテストは2005年11月21日に行い、質問紙調査は2005年12月6日から9日の間に行った。被験者はタイのバンコクの大学で日本語を主専攻として勉強する4年生83名のうち、リスニングテストを受け質問紙調査で不備のなかった者58名(男性10名、女性48名)である⁴。

3. 分析と結果

3.1. リスニングテスト

リスニングテストの平均点は58.7点であった。1993年の2級の日本語能力試験の国外での平均点が58.8点(国内78.2点)であるため、ほぼ平均点は同じものとなった。

3.2. 使用するリソース数とリスニング能力との相関に関して

使用リソース数とリスニングテストの点数との相関を調べた。チャットに関しては、下位項目の回答者数が少なかったためチャットを使用している者として1つにまとめた。したがって、リソースの項目は16となり、これらの項目とリスニングテストの相関を求めたところ、やや相関($r=0.272$ 5%水準で有意)がみられた。このことから、様々な種類のリソースを使っている者の方が、リスニング能力が高い傾向があるということがわかった。

3.3. リスニング能力を高めるのに特に関係のあるリソースはあるか

リスニング能力の高低により使用するリソースに差が生じているのかを調べるため、リスニングテストの点数をもとに成績上位グループ、中位グループ、下位グループの3つに分け、リソースを使うことの有無との間で χ^2 乗検定を行った⁵。その結果、「直接会って日本人教師と話す」($p=0.032<0.05$)「直接会って日本人の友達と話す」($p=0.005<0.01$)「DVD」($p=0.03<0.05$)の3項目において統計的に有意な差がみられた。

差が生じたところを検討するため、調整済み残差を見てみると(表2)いずれの項目においても下位グループの「いいえ」の値が2.0以上であることがわかる⁶。このことより、リスニング能力が下位の者は、「日本人教師」「日本人の友達」「DVD」の3つのリソースをリスニング能力が上位・中位グループの者より使っていないということがわかる。

表2 調整済み残差の一覧表

	日本人教師		日本人の友達		DVD	
	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
上位グループ	-0.7	0.7	-1.1	1.1	-0.6	0.6
中位グループ	-1.6	1.6	-1.8	1.8	-1.7	1.7
下位グループ	2.6	-2.6	3.2	-3.2	2.6	-2.6

上記3つ以外のリソースのうちラジオとビデオに関しては、 χ^2 二乗検定を行ったところ期待度数が5未満であり統計的検定を行えなかったため、クロス表を作成し分布を調べた。その結果、ラジオ、ビデオとも使用者は3人であり、全ての者が成績上位者であることがわかった。したがって、人数が少ないため統計的な裏付けを持って言うことはできないが、ラジオとビデオを使っている者は、リスニング能力が高いということがわかった。

3.4. 学習者はリソースを使用して、リスニング能力が向上したと感じているか

まず、リソースごとにそのリソースを使ってみて自分のリスニング能力が伸びたかどうかを「全然変わらない」から「とても良くなった」までの5段階で評価してもらった。その結果をまとめたものが表3である。ただし、この質問項目においては、質問紙に回答してもらった際の複雑さを避けるため、「直接会話する」と「チャット」の項目では質問を行っておらず、また、「ビデオ・VCD・DVD」と「テープ・CD」をそれぞれ1つの項目にまとめて回答してもらった。

リソースを使ってみての自己評価の結果を見ると、まずリソースを使っていてもリスニング能力が全然変わらないと感じている者はおらず、全体的には良くなったと感じている者が多いということがわかる。「普通のテレビ番組」であまり変わらないと答えた者が多かったが(28.0%)、これは、日本語をわずかしか使っていないコマーシャルなども含まれており、日本語が話されている量が少ないということに関係しているためのものである。また、二ヶ国語放送の番組では回答が他のものに比べ分散しているが、これは番組を見ている際に音声をどの程度日本語にかえるかが回答者によって様々であったためかもしれない。

表3 リソースを使ってみての自己評価(人数と割合)

	全然 変わらない	あまり 変わらない	少し良 くなった	良 くなった	とても良 くなった	合計
普通のテレビ番組	0(0.0%)	7(28.0%)	12(48.0%)	6(24.0%)	0(0.0%)	25(100%)
二ヶ国語放送の番組	0(0.0%)	4(13.3%)	14(46.7%)	10(33.3%)	2(6.7%)	30(100%)
ラジオ	0(0.0%)	0(0.0%)	2(66.7%)	1(33.3%)	0(0.0%)	3(100%)
ビデオ・VCD・DVD	0(0.0%)	2(4.9%)	16(39.0%)	18(43.9%)	5(12.2%)	41(100%)
テープ・CD	0(0.0%)	2(4.3%)	24(51.1%)	18(38.3%)	3(6.4%)	47(100%)
インターネット	0(0.0%)	0(0.0%)	5(41.7%)	7(58.3%)	0(0.0%)	12(100%)

次に、リスニング能力によってリソースへの評価が変わるのかどうかを表したものが表4である。この表を見ると、「良くなった」と「とても良くなった」の割合は、成績上位者は49%、中位者は49.3%であり、どちらもほぼ半数の者がリスニング能力が良くなったと感じているのに対し、下位者は25%であり「とても良くなった」と感じている者は一人もい

ない。以上のことから、リスニング能力が低い者は、リソースを使ってはいるが、リソースを使うことによってリスニング能力が全然変わらないということはないが、それほど伸びたとは実感していないということがわかる。

表4 リスニングテストの成績とリソースへの自己評価⁸

			リソースへの自己評価					合計
			全然変わらない	あまり変わらない	少し良くなった	良くなった	とても良くなった	
リスニング テストの 成績	上位	人数	0	2	26	19	8	55
		上位の中の%	0%	3.6%	47.3%	34.5%	14.5%	100%
		自己評価の%	0%	13.3%	35.6%	31.7%	80.0%	34.8%
	中位	人数	0	6	30	33	2	71
		中位の中の%	0%	8.5%	42.3%	46.5%	2.8%	100%
		自己評価の%	0%	40.0%	41.1%	55.0%	20.0%	44.9%
	下位	人数	0	7	17	8	0	32
		下位の中の%	0%	21.9%	53.1%	25.0%	0%	100%
		自己評価の%	0%	46.7%	23.3%	13.3%	0%	20.3%
合計	人数	0	15	73	60	10	158	
	成績別の%	0%	9.5%	46.2%	38.0%	6.3%	100%	
	自己評価の%	0%	100%	100%	100%	100%	100%	

4. 考察

調査の結果、リスニング能力が高い者は、DVD、日本人教師、日本人の友達、ラジオ、ビデオを使っているということがわかった。以下では、それぞれのリソースについて、学習者に行ったインタビューの結果と合わせて考察を加える⁹。

4.1. DVD

DVD と似ている媒体としてVCDがあるが、VCDに関しては使用の有無とリスニングの成績との間に統計的な有意差は表れなかった。DVDでは有意差が表れたのに対しVCDにおいては有意差が表れなかった理由として、ソフトの違いと、使い方の違いが考えられる。

まず、ソフトに関してだが、DVDで手に入れられるものと同じものが、全てVCDで手に入れられるのではないのかもしれない。例えば日本で売っているソフトを手に入れようとした場合、日本ではDVDが主流でありVCDで手に入れられるソフトは限られてくる。この点は、どのようなソフトがリスニング能力を伸ばす上でより効果的であるかということを知るためにも、より詳細なリソースの調査を行っていく必要があるであろう。

使い方に関しては、DVDとVCDで一番大きく違う点は、字幕の表示を選択できるか否かという点である。今回の調査でもDVD使用者に、DVDを見るときに字幕を表示させるか否かを聞いたところ、77.4%の者が字幕を表示させると答えている。2002年にリソースに関して学習者にインタビューした際、ビデオやテレビを用いて日本語を学習している者から、ソフトに対して一番多かった要望は字幕の表示であった¹⁰。このようなことから、字幕の表示を選択できるDVDにおいてのみ有意差が生じた可能性がある。

4.2. 日本人教師、日本人の友達

日本人教師と日本人の友達はリソースの区分では、人的リソースに当たるものである。今回の調査では、この人的リソースと直接日本語で会話することの有無を聞き、日本人の教師または日本人の友達と日本語で話している者は、リスニング能力が高いということが明らかとなった。タイ人教師、タイ人の友達とのやりとりにおいては有意差が生じなかったが、これは基本的には相手がタイ人の場合は、日本語でのやりとりは挨拶などの簡単なもので、後はタイ語に移行してしまうためのようである¹¹。これに対して、リソースが日本人である場合は、やりとりの内容が様々であり、インプットの量がタイ人と日本語で話す場合よりも多いようである¹²。

日本人教師と日本人の友達を比べた場合は、特に日本人の友達が1%水準で有意であり(日本人教師は5%水準で有意)、よりリスニング能力の高さと結びついている。これは、教師の場合、学習者がわからない場合はことばの調整を行っていることが考えられるが、日本人の友達の場合はそのようなこともなく、学習者も内容を理解するためにより集中して聞いているためではないだろうか。

また、リスニング能力の高い者の方が日本人のリソースを使っていることは、学習動機との関係からもみることができる。成田(1998)はタイの大学生の学習動機と成績との関係を調べた結果、成績がいい学習者は「日本人と親しくなりたいから」とか「日本人とコミュニケーションしたいから」といった統合的志向が強いとしている。成田の調査では、筆記試験の成績との関係をみているため、リスニングの成績にそのままあてはめることはできないが、成績のいい学習者は「日本人と話したい」という動機が強いため、自ら日本人リソースを探し、会話をしていたのかもしれない。

4.3. ラジオ

ラジオを使っていた者は、リスニングの成績が上位グループの3名のみであった。ラジオで日本語を聞いていない者にその理由をたずねたところ、「番組の存在を知らない」が76.4%で最も多かった¹³。タイではラジオの局数が多く、かつ日本語を使っている番組数自体が少ないことから、予め番組の情報を得ていないと、日本語の番組を聞くことができないためであろう。このような中、ラジオを聴いている3名とも成績上位グループであったことから、成績の高い者は日本語への動機が高く、様々なリソースを積極的に探して使っていることがうかがわれる。

4.4. ビデオ

ビデオを使っている者も、リスニングの成績が上位グループの3名のみであった。ビデオを使っている者が3名(5.1%)というのは、VCDを使っている者65.5%、DVDを使っている者58.6%と比べると、極端に少ない数字である。この理由として、ここ数年タイにおいてはVCDとDVDの再生機が廉価となり、それに伴い新しく発売されるソフトはほとんどVCDかDVDであり、ビデオのものはほとんどないということが考えられる。成績が上位の者だけが使っていた理由としては、2001年にリソース調査で学習者にインタビューした際は、日本語の映像ソフトはビデオが主流であったことから、その当時買っておいたものを見たり、先輩などから借りるなど、以前から使っていたか積極的に先輩などに当たってビデオ

を探した結果だと考えられる。また、国際交流基金バンコク日本文化センターの図書館にある映像ソフトはほとんどがビデオであるため、センターを利用しているものは、ビデオを使ったのであろう¹⁴。このように、現在ではビデオのソフトは積極的に探さないと手に入れにくくなっているため、動機や学習意欲の高い成績上位の者がビデオを使っていたのではないだろうか。

5. まとめと今後の課題

5.1. 調査のまとめ

調査の結果、以下の点が明らかとなった。

- (1) 様々な種類のリソースを使っている者は、リスニング能力が高い。
- (2) リスニング能力が低い者の方が高い者より使っていなかったリソースは、DVD と日本人教師と日本人の友達であった。
- (3) ラジオとビデオを使用している者はごくわずかであった。
- (4) リソースの種類に関わらず、リソースを使うことにより、全ての者が程度の差はあれリスニング能力が伸びたと感じている。
- (5) リソースを使っただけの自己評価が「良くなった」と答えた者は、リスニングの成績が下位の者より中・上位の者の方が多い。

以上のことより、授業以外の時間に学習者がリソースを使うことはリスニング能力を伸ばす上で効果があるといえるのではないだろうか。リソースを使った者は、リスニング能力が伸びたと実感し、また、様々な種類のリソースを使っている者はリスニング能力が高いことから、リソースを学習者に提示することはかなり有効な手立てであるといえる。しかし、考察のところでみてきたように、その際、リソースごとに注意点があることがわかった。以下にその点をまとめ、今後の課題としたい。

5.2. 今後の課題

5.2.1. より詳細なリソース調査

今回の調査では、リスニング能力とそれぞれのソフトの内容との関係までは触れることができなかった。それぞれのソフトには様々な内容のものがああり、どのような物が特にリスニング能力の向上に役に立つのかということ調べておかないと、学習者に提示する際不完全な提示になってしまう。この点を深く調べていくことにより、VCD と DVD、テープと CD などのように似たソフトの違いなどを把握することができるようになるのではないだろうか。

5.2.2. リソースの使用方法についての調査

DVD の考察でも述べたように、DVD は VCD と違い字幕の表示を選択できる。このような使い方の違いがリスニング能力に影響を与えた可能性があるが、ではどの言語(日本語・タイ語・英語等)をどのくらい表示させるのが効果があるのかなど、どのように活用すればリスニング能力が伸びるのかなどは研究はまだなされていない。また、リソースを使っただけの自

己評価で、リスニングテストの成績の下位のグループの者の自己評価が低かったのは、適切なリソースの使い方をしていなかったためかもしれない。このようなことから、DVDに限らず、テレビの二ヶ国語放送の活用の仕方、CDやテープなどで歌を聞くときの歌詞の活用の仕方など、全てのリソースにおいて使用方法を調査して提示しておけるようにしておくことが必要ではないだろうか。そうすれば、学習者が教室外でリソースを使って自律学習をしようとする際に役立つであろう。

5.2.3. リソースを得る機会・場所・方法等の情報の提供

今回の調査で、日本人の人的リソースがリスニングリソースとしては効果的であるということがわかったが、海外においてはこの人的リソースというものは手に入れにくく限りのあるリソースである。実際、国立国語研究所(2003)の調査でも、日本語でやりとりしない理由を聞いたところ、一番多かった答えは「日本語を使う相手がいないから」であった¹⁵。このことから、人的リソースの場合は、学習者に効果的であると紹介するだけではなく、どのようにしてそのリソースを手に入れるのか、機会の作り方などについても提示していくことが不可欠であろう。

5.2.4. 学習動機とリソース使用との関係

人的リソース、ラジオ、ビデオの考察でもみてきたように、成績が高い者は動機が高く様々なリソースを積極的に使っているようである。逆にいうと、あまり動機が高くない者には、リソースの存在を提示しても使わない可能性がある。リソースを用いて学習者が自律的に学習していくためには、動機付けも大きな要素となる可能性がある。今後のリソース調査においては、動機付けとの関連にも関心を払っていくべきであろう。

5.2.5. ハードの変更に伴うソフトの変更

現在タイにおいては、ビデオの再生機はVCD、DVDの再生機にとってかわりつつある。このような状況においては、これから出てくる新しいソフトに関してはVCDやDVDで発売されるため問題がないが、以前作られたビデオソフトが再生できなくなってしまうという問題が出てくる。私の教える大学においても、2004年から教室でビデオを使うためには一回VCDに焼き直してVCDの再生機で再生させなければならなくなってしまう。このようにVCD化、DVD化が進んでいる状況では、ビデオのVCDやDVDへの焼き直しという作業が必要となってくるであろう。このことは、テープとCDとの関係にも言える。以前から日本語教育を行っている機関では、このようなソフトの移行を行わなければ、教室でも教室外の学習者の自律教材としても使えなくなってしまう。著作権法との兼ね合いもあり、難しいところではあるが、早急に取りかからなければならない問題であろう。

6. おわりに

今回の調査により、使えるリソースが日本国内と比べ少ない海外においても、教室外でリソースを使うことはリスニング能力を高めるのに役立つということがわかった。しかし同時に、取り組まなければならない課題も多くあるということが明らかとなった。これら

の課題を一つ一つ順番に明らかにしていくとかなりの時間がかかってしまうであろう。その間にも、学習者は変わり、リソースとなるハードやソフトなども変わっていつてしまう。このようなことから、それぞれの地域で教えている者が協力し合い、これらの課題を同時並行的に調査していくことが必要であろう。

注

- ¹ 『日本語能力試験の概要』(国際交流基金)1993年版から2003年版までをもとに作成した。
- ² 最近数年間の能力試験は過去の問題が入手しやすく、学習者が既に学習している可能性があったため用いず、1993年の試験を用いた。
- ³ 直接会って会話するの下位項目：日本人日本語教師、タイ人日本語教師、大学の友達、家族・親戚、大学以外の日本人の友達・知り合い、大学以外のタイ人の友達・知り合い
チャットの下位項目：日本人日本語教師、タイ人日本語教師、大学の友達、家族・親戚、大学以外の日本人の友達・知り合い、大学以外のタイ人の友達・知り合い、チャットで知り合った日本人、チャットで知り合ったタイ人
- ⁴ 調査はタイのバンコクにある私立タイ商工会議所大学で行った。
- ⁵ グループ分けはリスニングテストの素点をもとに、平均点(15.26点)が中位グループの真ん中に来るようにし、それぞれのグループの点数の幅が等しくなるように分けた。
- ⁶ 「分割表における残差とは、実測度数と期待度数の差のことである。残差の大きいところが特徴的なところである。実際には、残差そのものではなく、調整済み残差を計算し、その値を吟味することになる。～調整済み残差 d は、平均0、標準偏差1の正規分布に近似的にしたがう。この性質から $|d|$ が2以上のものは、特徴的な箇所であるとみなしてよい。」内田(1997)
- ⁷ この2項目に関しては、今後改めて調査を行う予定である。
- ⁸ 人数は該当項目を選択した延べ人数となっている。
- ⁹ インタビューは2002年2月に今回の調査と同じ大学の学生24人に対して、どのようなリソースを使っているのか、リソースの使用法、希望するリソースなどについて半構造化した形で行った。
- ¹⁰ 2002年当時はまだDVDの再生機・ソフトともそれほど普及しておらず、高価なものであった。
- ¹¹ 「タイ人の友達と話すときは、文法とか言葉とかで知っているのを話す。『今日は何を食べる』とか。難しい言葉があったらタイ語で話す。」(2002年のインタビューより)
- ¹² 日本人の知り合いとの会話の内容は、日本のこと(地理、マンガ、映画、歌など)、タイのこと(文化、タイ料理、タイでの生活、観光地のこと)、アルバイト先でのお客さんとのやりとりなど様々であり、ほとんど日本語で話している。(2002年のインタビューより)
- ¹³ その他の答えは以下の通りである。「興味がないから」5.5%、「ラジオがないから」3.6%、「時間がないから」3.6%、「一緒に聞く人が日本語がわからないから」1.8%、「その他」7.3%、「無回答」1.8%
- ¹⁴ 日本語・日本関係の本・映像資料などが置いてあり、学習者は図書館でビデオなどの映像資料を見ることができる。
- ¹⁵ 今回の調査でも同じ質問をしたところ、やはり一番多かった答えは「日本語を使う相手がない」で59.3%であった。

参考文献

- 内田治(1997)『すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析』東京図書
国際交流基金(1994-2004)『日本語能力試験の概要』1993年版～2003年版

- 国立国語研究所(2003)『平成13年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究
—タイ(バンコック)アンケート調査集計結果報告書』
- トムソン木下千尋(1997)「海外の日本語教育におけるリソースの活用」『世界の日本語教育』第7号, pp. 17-29, 国際交流基金日本語国際センター
- 成田高宏(1998)「日本語学習動機と成績との関係—タイの大学生の場合—」『世界の日本語教育』第8号, pp. 1-11, 国際交流基金日本語国際センター
- 山口雅代(2001)「チェンマイ大学におけるリソースの活用」『バンコック日本語センター紀要』第4号, pp. 123-128, 国際交流基金バンコック日本語センター